

帝大名譽教授

中島博士逝去さる

東京帝大名譽教授工學博士中島銳治氏は二月十六日夜八時半本郷駒込林町の自邸で突然腦溢血で卒倒し、危篤に陥り十七日夜十時遂に死去された享年六十八、博士は我邦に於ける水道の創始者で斯界に貢献した功勞は頗る多大、現に各水道事業の顧問をしてゐられた。博士は明治十六年東大工科土木の出身である工事畫報編輯部は此の學界の先覺者たる博士の靈前に參じ謹みて弔意を表しました。

地下鐵道(會社線)四月から起工

東京市の計畫する地下鐵道は、鐵道省の認可があり次第工事に着手する方針で、目下種々準備中であるが、私設會社の中で只一つ残つた地下鐵道では、工事材料も整つた上、工事は一切大倉組で負擔する旨の契約も纏り、いよいよ四月から起工する運びとなつたので淺草、上野間約一哩半に亘る分を眞先きに起工する事になつてゐる、これは工費一哩當り四百萬圓で、約一ヶ年半で開通の豫定である。

東京市の砂利自給

東京市では復興計畫遂行まで年々約十一萬坪三百六十萬圓の砂利を必要とするが、今回多摩川下流小宮村沿岸九萬坪を買収採取場を設けた、同所には中央線日野驛から約二マイルの間に軌道を敷設し年々約三萬坪を採取し、それを省線により、目下廿八萬圓の工費で埋立工事中の四ッ谷市ヶ谷見付の外濠に集積場を設けることとなつた、道路局では市内道路の大々的改良工事を施すため、同局技師堀信一、小池啓吉兩氏を街路舗裝並びに街路、橋梁維持保存に關する研究視察として洋行せしむることとなつたが、期間は一年の豫定である。

有吉技師の歐米視察

南滿州鐵道株式會社鐵道部技師有吉大藏氏は今回鐵道建設に關する事項研究のため滿一ヶ年間歐米各國の鐵道工事を視察せらるる由。

上越北線内ヶ卷

トンネル一部崩壞

三月四日午前四時頃長岡建設事務所管内の十日町線、内ヶ卷トンネル西口二百三十呎の營築終點が俄然崩壞した爲、作業中の工夫十五名が生き埋まなつた。同所は上越北線越後川口起點二マイル五十九チェーンに掘鑿工事中のトンネルで長さ千二百二十二フイートの所を既に八百五十八フイートまで掘鑿し六月までには全部掘り抜くべく晝夜兼行で工事を急ぎつゝあつたものである。急報により長岡建設事務所川口出張所より係員及び人夫を多數急行し坑道の上部と側面の兩方より救助作業に全力を擧げて掘進んだため、六日午前五時半五十一尺のところで貫通し、まづ一名の工夫が横這ひになつて行くこ、十五名の遭難工夫一同は意外の元気で感激のあまり泣き笑ひするものもあつたが、にはかにあかみを見るこ失明の恐れあるため目隠しをしてひこまづ飯場に收容した、一同は空腹を訴へてゐるが重湯、玉子の外食せしめず経過を見て午前八前醫師の診斷を得て後漸く家族に面會をゆるした、坑内から出た遭難者は交々語る「すばらしい音がしたこ思ふこトンネルの上を抜けたので生きた氣持ちははしませんでした幸ひわたし共のゐた場所は一番近い人で二三間離れてゐたのでたすかりました五日の晝ごろこ思ふこ工事の音が響き出したので土くづれが案外淺かつたこ分かりたすかりました」この事である同トンネルは偏壓甚だしく、既に一二回小崩壞をしたこがあり一部の設計を變更し嚴重警戒の上作業を續けてゐたものである。

鐵道改良事業

線路増設並改良細目

鐵道省の改良工事に屬する事業中之が各別の年度割豫算は次の如く決定を見るに至つた。

線路増設費

線路増設費の總額は壹億四千七百拾九萬九千圓で之が年度割は左の如し。

十四年度	貳千六百八拾壹萬四千圓
十五年度	參千拾四萬六千圓
十六年度	參千貳百四拾五萬五千圓
十七年度	貳千六百四萬七千圓
十八年度	壹千貳百壹萬四千圓
十九年度	壹千貳百五拾貳萬貳千圓
二十年度	七百貳拾萬壹千圓

而して之が事業の内容に關して其の着手及完成年度並に總豫算を示すに次の如し。

(豫算の單位千圓)

事業別	總費	着手年度	完成年度
田端大宮間線路増設	5,521	14	16
國府津沼津間線路變更	20,984	14	17
横濱小田原間線路増設	8,743	14	17
京都鷹取間線路増設	27,483	14	20
名古屋稻澤間線路増設	1,671	14	19
國分寺八王子間複線	2,108	15	20
高崎線複線	4,104	15	18
姫路海田市間複線	500	14	14
廣島下關間複線	13,769	14	19
名古屋龜山間複線	10,600	14	20
城東貨物線新設	8,000	14	17
岩見澤瀧川間複線	1,219	14	19
東京市街線新設	12,463	14	17
金町小岩間及越中島線新設	4,074	14	19
小野濱並和田岬線延長	4,800	14	20
大阪水陸聯絡線新設	5,069	14	20
支線新設	600	14	16
品川鶴見間貨物線増設	7,000	14	16
大阪北方直通線増設	900	14	14
奈良柏原間複線	600	14	15
飯田町中野間線路増設	6,700	14	17

右の内名古屋稻澤間は十四年度に着手して一部完成し殘區間は十七年度より再び着手の上全區間の完成は十九年度、又國分寺、八王子間は十五年度より着手して十七年度に於て一部完成殘區は十九年度再着手二十年度完成又名古屋、龜山間は十四年度着手十六年度一部完成殘區は十九年度再着手二十年度完成、又岩見澤、瀧川間は十四年度に一部完成、殘區は十八年度再着手十九年度完成又小野濱並和田岬間は十四年度着手十七年度に一部完成殘區は十九年度再着手二十年度完成而して大阪水陸聯絡線は十四年度着手十六年度一部完成し殘區は十九年度に再着手の上二十年度完成である、線路増設事業繰延のものは

- 一、宇都宮黒磯間複線
- 一、黒磯郡山間複線
- 一、郡山福島間複線
- 一、赤間大牟田間複線
- 一、小倉折尾間線路増設
- 一、小倉行橋間複線
- 一、追分室蘭間複線
- 一、龜戸(兩國橋)千葉間線路増設
- 一、玉造放出間線路新設
- 一、長尾新田間線路新設
- 一、關門聯絡線新設

線路改良費

線路改良費の總額は參千七百貳拾壹萬四千圓で之が年度割豫算は次の如し。

十四年度	壹千貳百參拾壹萬四千圓
十五年度	壹千貳百萬七千圓
十六年度	壹千貳百八拾九萬參千圓

而して之が事業の内容に關して其の着手及び完成年度並に其の費額を示すに左の如し。

事業別	總費	着手年度	完成年度
橋桁改良	14,100	14	16
軌條更換	13,500	14	16
線路諸改良	7,214	14	16
隧道改良	1,800	14	16